

本会の活動から

第53回予防医学技術研究会議で 本会の取り組みを発表

第53回予防医学技術研究会議（主催 予防医学事業中央会、茨城県総合健診協会）が2月7～8日、茨城県水戸市で開催され、本会の職員10人が参加した。

研究会議では、「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマに、シンポジウムやフォーラム、ディスカッション、口演など、これまで最多の123題の発表があった。筆者も「対策型子宮頸がん検診におけるASCIH症例の現状と検討」と題して発表したため、その内容を紹介する。

本会が1次検診でASCIH（高度扁平上皮内病変を除外できない異型扁平上皮細胞）と判定し、後に浸潤がんと確定診断されたものを対象に検討を行った。



江市で開催され、31の都府県支部から渉外担当ら約100人が参加。本会からは職域保健部、施設健診部、学校保健部、地域保健部の職員4人が出席した。

本研修会は、各支部の現状や問題点を話し合い、情報交換を行う中で、それぞれの支部の改善点や必要な取り組みを確認し、健診・検査やサービスのさらなる向上につなげることを目的としている。

初日は、職域保健、学校保健・地域保健に分かれて討議が行われた。筆者が参加した地域保健の討議では、5人ほどのグループに分かれてディスカッションが行われ、近年問題となっている「受診者の減



った。再評価の結果、より高度な病変を推定できた症例があったことから、標本全体を注意深く観察することで、細胞所見や特徴的な像を捉えることができ、これにより、高度病変の推定が可能な場合が多いことを報告した。

しかし、高度病変と判定し難いものもあり、その場合はASCIHというカテゴリーを生かしながら適切な診断に努めたい。

研究会議ではこの他、昨年発表した本会検診検査部の佐藤由佳が学術賞（児玉賞）を受賞した。

今回の経験を励みに検査のさらなる精度向上をめざしたい。

母子保健検査部 青木あすか

第284回 日本産業衛生学会 関東地方例会で報告

第284回産業衛生学会関東地方例会（会長 柳澤裕之・東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授）が2月9日、「どうしよう？ どうしている！ 特定健診の問診に歯科項目が加わって——多職種連携を実践するには」をメインテーマに、東京医科歯科大学で開催され、約100名が参加した。

特定保健指導において、口腔の健康管理を取り入れているケースは少ない。例会では、歯科項目追加の経緯、医科歯科の連携、職域における口腔保健指導について、座長（尾崎哲則・日本大学歯学部教授）の基調講演を含む5題の講演が行われた。

本会からは、健康増進部の加藤京子保健師が「労

少」について活発に意見が交わされた。

2日目は、若手県支部の取り組み、中央会からの報告の他、「渉外活動をうまく進めるための組織づくり」という題目で新潟、千葉、広島各支部の事例を基にディスカッションが行われた。

他支部と情報交換をしたことで、本会の現状も知ることができた。東京都は同業他社が多いことから、他団体との差別化を図ることが大事であり、接遇や検査精度、電話やウェブ予約などの付帯サービスの充実を、これまで以上に顧客へ発信していくことが重要だと感じた。

地域保健部 景山咲良

児童・生徒の心臓検診と腎臓検診の 打ち合わせ会を開催

新年度を迎え、小・中・高等学校で児童生徒の健康診断が一斉にスタートしている。これに先立ち、本会では例年、それぞれの検診が円滑に実施できるよう、関係者による打ち合わせ会を開いている。

今年も、東京都新宿区のホテルを会場に、心臓検診の打ち合わせ会を2月28日に、腎臓検診の打ち合わせ会を3月8日に開催した。

それぞれの打ち合わせ会には、本会の検診の指導及び検診で異常が見つかった子どもたちの診断や治療を担当している専門医や本会のスタッフなど約50人が参加。2018年度の検診実績が報告され、2019年度に実施する予定者数や日程の確認などがそれぞれ行われた。

また、2018年度に発見された症例の追跡結果等についての報告等があり、より充実した検診のあり方をめぐって活発な討論が交わされた。



働衛生機関産業保健職の立場から」と題し、3つの連携（健保・事業所、本会他部署、部内多職種）と、対象者と信頼関係を築きながら行ってきた特定保健指導10年間の実績について報告した。

それに続いて筆者は、「管理栄養士の立場から」と題し、保健師との連携、歯科項目を生かした人間ドックでの取り組み、外部労働衛生機関の役割について報告した。

例会では、歯科における新たな知見を学ぶとともに、本会の多職種が、共通のテーマでそれぞれの立場から発表するという貴重な機会をいただいた。

健康増進部 鶴田浩子

平成30年度予防医学事業中央会 全国業務研修会に参加

予防医学事業中央会主催の「平成30年度全国業務研修会」が2月28日～3月1日の2日間、島根県松



医師、看護師のミーティングを開催

本会では毎年、健康診断に従事している医師や看護師と関連スタッフによるミーティングを開催し、健診の現場で起こり得るさまざまな問題や課題を話し合い、共通理解を深めて、健診の精度やサービスの向上を図るよう努めている。

2月21日に本会で行われたナース・ミーティングには、本会の健康診断に従事している看護師をはじめ、関係スタッフ約30人が参加。2018年度の活動実績や2019年度の事業計画が報告された他、現場で起こるさまざまな課題への対応策、健診業務の変更点などについての説明が行われた。

一方、3月2日に本会で行われたドクターズ・ミ

ミーティングには、
本会の学校・地
域・職域などの
健康診断を担当
する医師と関係
スタッフら約50
人が参加した。

ミーティング
では、2018
年度の事業概要
や2019年度
の事業計画、健
診を取り巻く状
況などが報告さ
れた。また、消
化器診断部長の川崎成郎医師が本会保健会館で行
っている内視鏡検査の実際について、細胞病理診断部
長の久布白兼行医師が子宮頸がんのトピックについ
て紹介した他、総合健診部長の川井三恵医師が診察
の手順の確認を行った。

それぞれのミーティングでは、より質の高いサー
ビスの提供や事故防止のための意見交換などが行わ
れた。

本会の理事会を開催

本会の平成30年度第2回理事会が3月25日、本会
で開催された。挨拶に立った理事長の小野良樹は、
本会の2つのスクリーニング事業における新たな取
り組みに触れて、次のように述べた。

「先天性代謝異常症の一つであるライソゾーム病を



新たな検査項目に加えるため、東京慈恵会医科大学
の衛藤義勝名誉教授ら専門医の指導・協力を仰ぎ、
今年4月からパイロットスタディを開始する予定で
ある。また、乳がん検診で課題となっている高濃度
乳房対策として、2年前より行っている3Dマンモ
グラフィの有用性を検証する研究では、約6000
人の症例を検討。まだ暫定的な結果であるが、がん
発見率や陽性反応適中度などが高かったことから、
4月より3Dマンモグラフィを活用した乳がん検診
を事業化することにした。これにより、乳がん検診
のさらなる精度向上を期待している」

その後理事会では、小野理事長を議長として、「平
成31年度の事業計画・収支予算」「理事会運営規則・
評議員会運営規則」「組織改編」などの議案が審議
され、いずれも満場一致で承認された。

ホームページを全面改訂しました

本会の行う各種事業を都民の皆さまにご理解いた
だくとともに、予防医学に関する情報提供を行うツ
ールの一つとして、ホームページはますます重要度
を増してきています。

今回のリニューアルのコンセプトは、健康診断や
人間ドック、外来診療で本会を利用される皆さまの
目線に立って、より活用しやすい内容にすること。
このため、必要な情報にアクセスしやすい画面構成
を心がけました。また、好評いただいているフェイ
スブックは、さらに充実させていきたいと考えてい
ます。

お気づきの点など、ご指摘ご助言いただきましたけれ
ば幸いです。



小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、
専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。
軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。
「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、
専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります(保険診療)。
本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

前田美穂先生による

「貧血電話相談室」

養護教諭・保健師・看護師からの相談を
お受けします(無料)

開催日：第1水曜日 14時半～15時半

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木眞理 政策研究大学院大学 教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第3水曜日 午後	第1金曜日 午後



小児健康相談室

問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 学校保健部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131

第285回ヘルスケア研修会 健康スコアリングレポートの 目的と活用法

日時 5月29日(水) 14時~16時
会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール
演題 健康スコアリングレポートの目的と活用法
——コラポヘルスの視点から
講師 辻 一郎氏 東北大学大学院医学系研究科教授
●参加費 2,000円
●申込不要 ●定員 200人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
☎03-3269-1131 内線2241、2242

第57回東京思春期保健研究会 胎生期環境が決定する 思春期の早期初来と生活習慣病

日時 6月8日(土) 17時~18時
会場 新宿区・持田製薬株式会社 本社2階「ルークホール」
演題 胎生期環境が決定する思春期の早期初来と生活習慣病
——DOHaD説の視点から
講師 福岡秀興氏 早稲田大学ナノライフ創新研究機構規範科学総合研究所
●参加費 一般:1,000円 学生:500円
●申込不要

問い合わせ 東京思春期保健研究会事務局 ☎03-5275-1191

第1回切れ目のない 妊娠・出産・育児支援のためのセミナー 周産期メンタルヘルスから児童虐待防止へ

日時 6月30日(日) 9時45分~17時15分
会場 千代田区・損保会館 404・405
演題 ①「健やか親子21(第2次)『妊娠期からの児童虐待防止対策』」
②「周産期メンタルヘルス」③「児童虐待と多機関連携」
講師 ①山縣然太郎氏(山梨大学大学院教授)②鈴木利人氏(順天堂
大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック教授)
③仙田昌義氏(総合病院 国保旭中央病院小児科部長)
●参加費 16,200円(税込)
●対象 保健師、助産師、医師、ソーシャルワーカー、保育士、
行政の子育て世代包括支援センター担当者等

第31回 お母さんと子どもの元気セミナー 虐待から子どもを守る

日時 7月10日(水) 13時30分~15時30分
会場 中央区・「セミナールーム茅場町 Co-Edo」3F会議室
演題 児童虐待とは、虐待する親の心理 ほか
講師 酒井道子氏 慶應義塾大学病院小児科精神保健班、
NPO法人らんぷあんぶらざ、フォーレ・カウンセリングセンター
●参加費 5,400円(税込) ●定員 70人(先着順)
●対象 保健師、助産師、看護師、保育士、教諭、
臨床心理士、カウンセラー等

問い合わせ 日本家族計画協会 ☎03-3269-4785

 **SHIMADZU**
Excellence in Science

今以上のデータクオリティを短時間で。
島津製作所の技術が、質量分析の常識を変える。

超臨界流体クロマトグラフ質量分析計
Supercritical Fluid Chromatograph Mass Spectrometer

Nexera UC/LCMS-8060

液体と気体の両方の性質をもつ超臨界流体を移動相に用いたNexera UC 超臨界クロマトグラフィーを分離系に採用することで、難揮発性・熱的不安定成分の分析を可能にし、高速分析での一段上の分離分析精度をお約束します。



トリプル四重極型 ガスクロマトグラフ質量分析計
Gas Chromatograph Mass Spectrometer

GCMS-TQ8050

新たな領域を切り拓く超高感度トリプル四重極型GCMS。高いイオン透過性能とノイズ除去性能を両立したOff-Axisイオン光学系の特長を最大限に引き出すために、増性能を高めた検出器を新たに採用しました。これらの最新技術により、フェムトグラムオーダーの極微量のイオンを確実に検出できるようになり、世界最高の感度を実現しました。



株式会社 島津製作所 分析計測事業部 <https://www.an.shimadzu.co.jp/>

詳細は **島津UFMS**

検索



人間ドックのお弁当「彩食健美膳」

2019年度のテーマは
眠り方改革 食事で見直す睡眠の「質」

本会の人間ドックのお弁当「彩食健美膳」は、アンケートで得た受診者様の意見を参考に、管理栄養士がメニューを考案し、毎年内容を変えています。

今年度のテーマは、「眠り方改革～食事で見直す睡眠の“質”」。主菜には鶏肉サラダとメヌケのユニソース焼きの2種類を揃え、野菜もたっぷり(220g)摂れて、食べ応えのある献立になっています(写真)。1食当たりの栄養価は、エネルギー652kcal、カロリー、食塩相当量3.5gです。

昼食時の講話では、管理栄養士がお弁当の内容や快眠リズムをつくる食事のポイントについて情報提供しています。

●個人情報の取扱いについて

日頃より、公益財団法人東京都予防医学協会の機関誌「よぼう医学」をご愛読くださり、ありがとうございます。



本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(氏名、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、下記広報室までご連絡ください。

●送付先の変更・送付中止について

送付先の変更・送付中止を希望される場合には、広報室までお知らせください。

Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp

F A X 03-3269-7562

T E L 03-3269-1131



健康管理コンサルタントセンター コンサルテーションのご案内

健康管理相談を お引き受けします

健康管理コンサルタントセンターの幹事である医師が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします(予約制・無料)。

お問い合わせ・
お申し込みは事務局まで

健康管理コンサルタントセンター 事務局

東京都新宿区市谷砂土原町1-2
公益財団法人東京都予防医学協会 広報室
TEL 03-3269-1131 内線2241、2242

あなたの健康づくりを全力サポート!

よぼう医学

2019 SPRING 春号 No.04

2019年4月15日発行 通巻第532号

●発行人 小野良樹
●発行所 公益財団法人東京都予防医学協会
〒162-8402 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
TEL: 03-3269-1121
FAX: 03-3260-6900
URL: <https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>

●企画 広報企画委員会
●編集 広報室
●デザイン 大谷達也(有限会社アイル企画)
●印刷 大日本印刷株式会社

●『よぼう医学』は本会ホームページ(<https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/>)からもご覧いただけます。

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載をお断りします。



アミノ酸・アシルカルニチン測定用 内部標準原液セット

NeoSMAAT[®]

ネオスマート

特長

- ◆ 溶液タイプの試薬で簡単調製！
- ◆ 内部標準溶液にC14:1を含有！
- ◆ 付属のカートリッジカラムで、汚れ等機器への負荷を軽減！



製品内容

製品コード	製品名 (構成試薬名)	包装	有効期間	貯法
509254	アミノ酸・アシルカルニチン測定用内部標準原液セット NeoSMAAT [®]			
	(アミノ酸内部標準原液)	1mL(192検体分)×5本	12カ月間	2~8℃
	(アシルカルニチン内部標準原液)	1mL(192検体分)×5本		
	(アミノ酸チェック原液)	0.5mL×1本		
	(アシルカルニチンチェック原液)	0.5mL×1本		
(カートリッジカラム)	500検体測定用×2個			

※本品は体外診断用医薬品ではありません。
 ※ご使用に際しては取扱説明書を良くお読みください。